

## 「共愛12の力」の育成とその成果の可視化

共愛学園前橋国際大学

佐藤賢輔・富山実佐子・後藤さゆり

### 1 学修成果指標「共愛12の力」と「共愛コモンループリック」の開発

学修成果の可視化にあたり、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、本学の学生が学びを通して身につけるべき力を4つの軸、12種類の力に整理し、それぞれ定義した（共愛12の力）。次いで、共愛12の力の伸長について、それぞれの達成度を評価する基準となる共愛コモンループリックを作成した。これによって、12の力それぞれを、レベル0～レベル4までで評価することが可能になった。また、本学の教育の目的を、共愛12の力の伸長と明確化し、各科目担当の教員が、その科目において、12の力のうちどの力の伸長を期待しているのかを設定し、全科目においてシラバス上に明示することとした。

### 2 「共愛12の力」に基づくカリキュラムの検証と改善

2015年度より、全科目において、授業を通じた12の力の獲得感と当該科目における授業外学修時間を調査するためのAP授業アンケートを実施している。力の獲得感については、当該科目を通じてそれぞれの力が「ついていない」から「かなり力がついた」まで4件法で回答させ、学修時間と合わせ、全科目の個別データを全教員にフィードバックしている。各教員は、授業の意図と成果の整合性をチェックし、過去のデータや他科目との比較を通じて、授業改善に向けた資料としてデータを活用している。また、データはカリキュラムレベルの成果の可視化としても利用され、アクティブ・ラーニング（AL）型の授業において、特にコミュニケーション力の獲得感が高く、授業外学修時間も長いなど、ALの質の点検、保証のための資料としても活用されている。これら継続な取り組みの成果もあり、学生の授業外学修時間は2014年度の週8.8時間から、2018年度には週15.0時間まで伸びた。

### 3 エビデンスベースドの自己評価システムの確立

Kyoai Career Gate（KCG）を導入し、各学生がeポートフォリオ上で学修記録の蓄積、12の力の自己評価、学びの振り返りなどを行える環境を整備した。年度初めに、1年間の学びを振り返る必修のリフレクションの時間を設け、学生にKCG上の学修記録をエビデンスとして、コモンループリックに基づく12の力の自己評価と学びの振り返りを行わせている。また、リフレクションの内容について学生と担当教員が個別に面談する期間も設けている。KCGの定着に向けた継続的な取り組みを通じて、主観的で根拠の薄弱な自己評価ではなく、エビデンスベースドの自己評価を行わせることで、多岐にわたる大学での学びの成果を、学修の主体である学生自身の自己評価そのものによって可視化するエビデンスベースドの自己評価システムを確立した。さらに、ショーケース（外部公開）機能を活用することで、KCG上の記録は、学生の学びの公開履歴書としても機能する。今後、大学HP上に各学生のショーケース検索機能を設置し、アカウントビリティのより一層の強化を目指す。

### 4 ラピタデスクの設置と運営

密な研修を受けた3、4年生が、主に1年生を対象としてレポート等のライティング支援を行うラピタデスクを設置した。ラピタデスクは、学生主体での運営体制が徐々に構築されており、現在では、多くの1年生が複数回のレポート執筆支援を受けている。2016年度には、ラピタデスクの効果測定を実施し、チュータリングが受講生のレポート関連知識や批判的思考力の伸長につながっていることが確認されている。ラピタデスクの取り組みは、本学におけるアクティブ・ラーニングの充実化のみではなく、授業内外での学生の能動的な学び、学び合いの風土の醸成にも貢献している。